

「令和5年度第1回二戸圏域地域医療連携会議及び二戸構想区域地域医療構想調整会議」会議概要

日時：令和5年9月13日（水）18：30～20：00

場所：二戸地区合同庁舎 1階 大会議室

1 開会

2 あいさつ（二戸保健所長）（概要）

- ・日頃から、二戸地域における保健・医療・福祉行政の推進に御理解、御協力を賜り感謝申し上げます。
- ・特にここ数年、新型コロナの対応について、ワクチン接種、感染症対策、検査、診療、関係者の皆様には多大なる尽力をいただき、重ねて御礼申し上げます。
- ・本日議題になっている、医療計画ですが、国の定める基本方針に即し、地域の実情に応じて医療提供体制の確保を図るために都道府県が策定しているもの。
- ・この医療計画は、本編のほか地域編を設けており、各圏域での重点課題と主な取組を記載し、関係者の皆様とともに取り組みを進めているもの。
- ・現在の岩手県の第7次の計画は、2018年度から2023年度までの6年計画で進めてきたが、次の第8次の計画に向けて、本編については、医療政策室において、医療審議会、医療計画部会等で見直しの作業を進めているところ。
- ・地域編については、各二次医療圏において検討することになっているので、本会議において見直しを進めていくもの。
- ・もう一つの議題である地域医療構想は、病院の具体的対応方針については、既に作成し、取り組みを進めているところ。
- ・今般、国の通知に基づき、有床診療所についても具体的対応方針を策定し、取り組みを進めていくこととなったもの。
- ・また、公立病院経営強化プランの策定についても作業が進められているところであるが、これについても地域医療構想調整会議に意見をいくこととなっているもの。
- ・限られた時間ではあるが、皆様から多くの御意見をいただきたいので御議論のほどよろしくお願ひしたい。

3 議事（森谷議長：保健所長）

(1) ア 計画の策定に向けた方向性について

○説明

- ・医療政策室佐藤主査
資料（資料1）により説明（省略）
- ・二戸保健所佐々木管理課長
資料（資料3）により説明（省略）

○質疑等

（軽米病院横島委員）

人口減少・少子高齢化の2045年までのグラフが示されているが、もっと下げ続けるのか、下げ止まりなのかの見通しを想定して考えてなければならないと思うが見通しはどうか。

（医療政策室佐藤主査）

人口減少が下げ止まりしているとの認識は、現時点ではない。県においても、国において

も人口減少対策として様々な対策を行っているが、改善するまでかなり時間がかかることから、2045年まで減少が続き、2045年以降も減少が続くという傾向であると認識している。

それを踏まえて、医療提供体制を考えていかなければならないが、一方で、65歳以上人口は減少していくが、75歳以上の人口は年度によって増加する傾向もあるので、それらの傾向を踏まえて医療計画を策定したい。

(二戸病院小笠原委員)

岩手県保健医療計画の作成の方向性P12中、在宅医療その他必要な事項について、3年ごとに調査とあるが、具体的にはどこの機関が行うのか。

(医療政策室佐藤主査)

全体については、医療審議会と計画部会の方で議論させていただく。在宅医療やがんなど個別の疾病・事業については、疾病・事業ごとの協議会で議論いただくもの。

(軽米病院戦場オブザーバー)

資料3の見直しのための課題整理中、地域包括ケアシステム構築との表現があるが、地域包括ケアについては、平成26年頃から国が動き出し、当院でも地域包括ケア病床を稼働して動きだし、本来の到達点までは至っていないが、動き出している。構築という表現ではなく後押しいただく様な表現にしてはどうか。

(1) イ 現計画(2018~2023)における進捗評価について

○説明

- ・二戸保健所佐々木管理課長
資料(資料4)により説明(省略)

○質疑等

(二戸病院小笠原委員)

医療従事者の確保には、非常に苦勞している。地域枠の医師の配置などがあるが、内科医ですら確保できない状況。県立病院の院長の対応だけでは追い付かないので、一丸となって対応する体制を作らないと限界が来るのではないかと。

人口減少、患者数の減少は、医師確保には不利に働く。そういった点などを含め、病院だけでなく、別な方法を考えていかないと医療資源の確保が難しいと考える。

(二戸病院高橋委員)

人材の確保について、多職種、全体で不足している。足りない職種を他の職種で補うとか、足りない職種の具体的な人材確保案をたてないと確保が難しい。

(二戸病院酒井委員)

人材が足りないという話であるが、若い先生が何故二戸に来てくれないのかということを考えていかなければならないと思っている。

是非、二戸で医療をやりたいと思う人が増えるような形にしないといけない。例えば、市町村にも医師確保に関して協力してもらった方がいいのかなと思っている。県とか院長が大学の医局に頭を下げて医者を出してくれというだけでは無理なのかなと思っている。

医療の高度化・専門化で、重症患者を圏域外に救急車で搬送する場合、圏域内の救急車が1台足りなくなる。救急隊等、医療に関わるまわりの人材も増やさないといけないと思って

いる。

受療動向について、地域の完結率が低いとのことであるが、個人的には圏域で完結しなくてもいいのではないかと考えている。必要があり、大学病院等に行くのであれば患者のためにはよい。

(森谷議長)

医療政策室から説明があったが、疾病によっては二次医療圏で完結できないものもあるので、各疾病事業ごとの協議会で検討を進めていくもの。

(一戸病院佐々木委員)

今後、この地域で、3つの県立病院がどういった役割を担っていくかを考えている。

3つの県立病院だけではやっていけない。例えば、介護や高齢者について、行政や診療所の先生方も参加できるような形をとって通信の連携が進められていて、今後は、通信の連携だけではなく、実際の居場所の確保等も連携できる仕組みがあればやっていけないのではないかと考えている。

(二戸医師会菅原委員)

介護連携の関係はで、これまでカシオペア地域医療福祉研究会が中心となって活動を行ってきたところであるが、昨年NPO法人カシオペア医療介護支援センターが立ち上がり、介護施設等の関係者が集まる場として活動している。今後は、このNPOが幅広い医療介護の連携の場となると考えている。

(二戸市社会福祉協議会山口委員)

認知症対策について、社会福祉協議会として抱えている問題は、徘徊したり、家に帰れなくなったり等の症状を訴える方々が増加している。

それをフォローするのが社会福祉協議会の一つの仕事であり、県との会議において、専門の支援員の人件費等の支援を訴えたところである。

病状を遅らせることはできるが、完治することはできない病気が増加していることに対して、社会福祉協議会として、どう対応していくか危惧しているということを訴えたい。

(おりそ内科・循環器クリニック折祖委員)

脳卒中・心血管対策について、応急処置等については、12誘導心電図伝送システム導入など新しいことが導入されているのでどんどん進めていただきたい。

予防については、特に禁煙対策について、公立施設は全面禁煙化が進んでいるが、公立施設以外の全面禁煙化をどう進めるかが課題。医師会だけの活動では無理があるので、行政の力も借りたい。

(二戸歯科医師会菅原委員)

歯科医師会と二戸保健所で、二戸地域の歯科保健・医療・介護従事者研修会を毎年実施していたが、新型コロナの影響で数年実施できていなかったが訪問歯科診療等の内容も交え再開する。

(看護協会二戸支部齋藤委員)

看護協会では、看護職の人材確保のため中高生の学生を対象に新人看護師が地元で看護職として働く喜びを発信したり、看護職の質を上げる研修会を実施している。

(二戸病院小笠原委員)

周産期医療について、この圏域で安心して出産できる体制を作り上げるという内容を計画に織り込んでほしい。

今、問題となっているのは、産後ストレスや産後鬱による児童虐待。

奥州市では、県が運営している岩手県周産期医療情報ネットワークいーはと一ぶのシステムを活用して、妊婦さんが周産期医療施設にアクセスできるように、システムを活用しようという動きがある。

二戸圏域でも、いーはと一ぶを活用し、助産師・保健師連携を図り、産後ケア・保健指導に繋いでいくということも織り込んでほしい。

(2) 地域医療構想等の推進について（有床診療所における具体的対応方針の策定について）

○説明

- ・医療政策室佐藤主査
資料（資料2）により説明（省略）
- ・二戸保健所佐々木管理課長
資料（資料5）により説明（省略）

(3) 公立病院経営強化プランの対応について

○説明

- ・医療局経営管理課桜田企画予算担当課長
資料（資料6）により説明（省略）

4 その他
特になし

5 開会